

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた塩津地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

第4回ワークショップの結果概要（案）

1 評価項目に関する意見

① 地区の活性化（まちづくり）

- 少子化でまちの人が少ない状況やたとえ多くの人が集まりたくても場所がないと難しいことを考えると、施設を複合化することで人が集まる可能性が高まり、多くの人が集まる場ができ、それが活性化につながるという評価項目は理解できる。
- 集まる場所があっても人が来るとは限らないので、ソフトが大事ではないか。塩津公民館と集会所との連携や使い分けを考え、コンテンツの充実も検討していくのが良い。
- 地区の中心に位置していると人が集まりやすいと思うので、それも評価項目にならないか。
- 施設がどこにあるのかは、今後自動運転システムなどの交通システムがもっと発達すればさほど問題にはならなくなるのではないか。
- 公民館を利用することが少ないので、この視点の評価には正直言ってあまり関心がない。
- 地域の体育祭の時にグラウンドが利用できれば、公民館が小学校、中学校どちらと統合されても構わない。

【ウ】

- 駐車場のスペースの確保ができるか否かというのは明確に判断できることなので、この項目の評価方法や結果に疑問はない。塩津公民館は地区全域に関わる会合などで使用されることが多く、車で集まることが多いので、駐車場が十分確保できるかは重要だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 駐車場スペースは建物ができた後にいくらでも確保は可能ではないか。
- 駐車場確保のために借地を使ったり、屋上を活用するという考え方はないのだろうか。
- D' 案だと駐車場は確保できるが、公民館へのアクセスが悪くなる。
- D案でグラウンドを小さくして駐車場にしてはどうか。
- 駐車場を確保するためにグラウンドを小さくしてしまうと、地域の活動で使用する際に困る。

② 子育てしやすい環境づくり

- 現状でも小学校と公民館の距離は近いが、複合化することで何がかわるのか。

【キ】

- 小、中学校が一緒になると、受験期の中学3年生は小さい子どもの騒ぐ声などがうるさく感じるかもしれない。十分な授業や部活ができるかについてはもっと評価するべきだ。
- グラウンドや体育館の利用時間帯を小学校と中学校で分けるなど、運用のやり方で問題解決できることだと思うので、利用時間が重なるかどうかはさほど重要な評価項目とは思えない。
- 時間帯で分けられると活動に制限が生まれてしまい、モチベーションの低下にもつながりかねない。十分な活動ができる様にと考えると、広いグラウンドや体育館が必要になり、コストもかかるだろう。

【コ】

- 小学校と公民館が複合化することで、遊びのスペースが増える可能性が生

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

まれたり、放課後も小学校の図書室などを利用できるようになるのであれば居場所づくりにつながると思う。

- 小学校と公民館の複合化が子どもの居場所や遊び場の創出につながる理由が良くわからない。公民館が子どもの遊び場になるとは思えないし、放課後に小学校の施設が利用できるようになったとしても、大人の目の届かない所で遊ぶのは危険だと思う。
- 子どもの居場所や遊び場の創出という意味では、児童クラブが充実すれば良いのではないか。ただ、児童クラブの充実は親にはありがたいが、そこに行きたくない子にとっては必ずしも良いことではない。

【追加項目】

- 【ケ】では小学校と中学校の建物が近接することがメリットとして評価されているが、小さい子ども達の声が中学生の学習環境に支障をきたすといったデメリットも懸念される。【ケ】をソフト面から評価するために、「運営・使用上の懸念が解消されるか」という項目を追加してはどうか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

③ 多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人）の利用できる場の創出

- 多様な人々の利用、交流が生まれるかどうかは、施設の組み合わせにかかわらず中身の問題、使い方次第ではないか。
- 公民館のことについては、利用者の意見を聞く必要がある。
- 評価項目はこれで良いのではないか。

【サ】

- 距離の問題は、コミュニティバスを通すなどソフトで解決できるし、将来的に交通システムがもっと発展すればさほど大きな問題にならないと思う。
- 1 km圏、2 km圏というのはどういう基準で決めたのか。施設が徒歩圏にあると行きやすいと考えるとしたら距離が長すぎる。
- 高齢者や障がい者は公民館には車で来るだろう。多様な人に利用されるようになるためには、駐車場が整備されることの方が重要だ。
- 塩津公民館は近隣住民が利用する集会所とは機能が異なるので、周辺人口の多少は評価としてふさわしくないと思う。

【ス】

- 公民館を小学生が利用することはほとんどないので、小学校と隣接しているかどうかを評価してもあまり意味がないように思う。

【シ・ス・セ】

- いずれの評価項目でも交流の場ができるかを見ているが、場ができることは人が集まるための大きな要素だと思うのでこの評価方法で良いと思う。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

④ 安全の確保

- 施設がどうあれ、安全性の確保は使う人のモラルにかかってくる。

【タ】

- 全ての案が同じ評価になっているが、施設が複合化して人の目が多くなる、大人の目が多くなる方が安全性が高まるのではないか。
- 人が多く出入りすると、知らない人も入ってくる可能性があるので、施設の複合化による安全性は一長一短ではないか。

【チ】

- 交通量の多い道路に接しているか否かで評価しているが、車より自転車の方が危ない点もあり、自動ブレーキシステムなど車の性能が上がっていることを考えても、この項目が重要なのかに疑問がある。
- 保育園と学校を同一敷地内にすると、通園、通学時などに歩行者と登園の自動車が混在して危険になるため、A、B、D、D'案の評価は「○」ではなく「△」になるのではないか。
- 塩津北保育園より塩津小学校の方が道路事情が良く、安全性は低下しないのでD案の「○」の評価は妥当だと思う。
- E案とB'案の評価が「△」になっているが、単純に利用者人数だけで評価しているように思えるので、辛口の評価ではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

⑤ 災害時の対応

【ツ】

- なぜ評価結果が全て現状と変わらない「○」なのか。施設を建て替えるのだから「◎」になる様にしてほしいが、そういう案は考えられないということか。体育館だけでなく小、中学校の教室を避難所として使うなど手立てはいろいろ考えられるので、スペースを増やす検討をしてほしい。
- 小、中学校が統合される場合、双方の生徒全員が合同で使えるくらいの大きさの体育館にしないと不自由が生じるし、避難所としても十分な広さとは言えないのではないか。
- 津波対策としては、施設の場所が高台にあるか、移動が難しい人も発災後すぐに高台にある避難所に移動できるかも重要なので、その視点からもチェックする必要がある。

【テ】

- 発災直後に一時的に行く避難場所は分散していた方が良いが、避難所は分散していなくても良いのではないか。

【ト】

- ハザードマップでは現在の公民館周辺は浸水地区ではないが、過去の災害時のことを考えると、本当に浸水しないのか、安全面の確保は大丈夫なのかという疑問が残る。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

⑥ アクセシビリティへの配慮

- 小、中学校で広い駐車場スペースが必要になるのは、年に数回のイベント時だけのことなので、他の施設の駐車場を使うなどの運用面での対策で解決できると思う。常時広い駐車場を確保する必要はない。

【ナ】

- 「距離の公平性」という言葉はあいまいだし、対象者ごとのアクセスについては他の項目で評価されているので、この評価項目はなくても良いと思う。

【ニ】

- 小学校が中学校の場所になって徒歩で通いにくくなるA、C、E案の評価は△ではなく×をつけたいぐらいだ。重要な項目なのでもっと重み付けをすべきではないか。
- 小学校跡地は利用価値が高く高額で売却できるという理由で小学校が中学校に複合され、通学距離が長くなるのは納得しがたい。
- 小学校が遠くなる場合は、通学バスなどによるアクセスの確保が付帯条件としてはすせない。

【ヌ】

- 保育園の駐車場は現状でも足りていない状況なので、それが統合しても変わらないのであれば評価は△ではなく、現状維持の○が良いのではないか。

【ネ】

- 保育園に通うのに徒歩以外の足がない人がいるのか疑問だ。もしいるとしたらアクセスについて何らかの援助をすれば解決できると思うので、評価

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

に入れるべき項目とは思えない。

【ハ】

- 公民館の利便性の高さを「駅から近い所にある」ことで評価しているが、地区内の人を対象と考えるならば一部を除けばあまり関係がないし、アクセシビリティの向上はコミュニティバスなどのソフト策で解決できることだと思う。

【項目追加】

- 「交通弱者のために新たな交通手段を用意する必要があるか」という評価項目を追加してはどうか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

⑦ 将来負担（コスト）の縮減

- 財政のことを考えれば、コストを重視するのは仕方がないことだと思う。無理をして、他にしわ寄せがきてしまっても困る。
- 税金を多く払う必要が出て構わないので、コストがかかってもこれだけの施設がほしいという意見もありうる。コストばかりを重視して評価しないでほしい。
- 塩津地区でのコストの下げ幅が小さくても、市全体で大きくなれば良いと思うので、コスト削減は市全体で考えてほしい。
- 75：25 という配分は適当に決めたことだと思うので、利便性の点数とコストの点数を足す意味がわからない。
- 施設を複合化することでコストが下がることがわかったが、大きなコスト要因である人件費も削減できると思うので、それを反映したら評価結果が変わってくるのではないか。
- 各案の課題に対応した場合のコストも計上するべきではないか。
- 金額が大きすぎることもあり、コストの数字を出されてもピンとこないのので、評価ができない。

2 評価方法に関する意見

- 視点ごとに評価項目の数に差があり、結果的に重みづけがなされた評価になっている。果たしてこれで良いのか。
- 「◎」「○」「△」の3段階評価になっているが、「○」は、“一長一短”を丸めて評価していて具体的な内容が分からないので、評価の判断がしにくい。
- 各案で課題となる事項に対しての対策案を出してほしい。対策案によって評価結果が変わる。

3 案作成の考え方や各案に対する意見

- 災害時の安全を考えて多少不便でも高台に公共施設を設置することは大切だが、一方で平常時の日常生活の利便性も重要だ。災害への備えと日常の利便性のバランスが取れた再配置プランが考えられると良い。
- 子どもの教育のことを考えると他地区の生徒と交流する方が良い面もある。中学校の配置を考える際には、地区の境を越えて市全体で考えるべきではないか。
- 小学校が中学校敷地に移設されると、鹿島や捨石などの子ども達は通学が困難になり、隣の地区の小学校の方が通いやすくなる。将来的に学区の境界線が変更され、地域分裂の危機が起こるのではないか。
- 利用者が少ない公立保育園の土地や施設を民間に売却することも検討してほしい。サービスや保育料が変わらないのであれば民間でも構わない。その方が行政コストが下げられて良いと思う。
- いろいろな選択肢が必要だと思うので公立保育園が塩津地区にある方が良い。延長保育を実施するなど、サービスを充実させて利用者を増やすべきだ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 規模が小さいために延長保育ができないのであれば、早急に保育園の合併を進め、園児の数を増やして延長保育を可能にする必要がある。
- 小さい子どもを持つ親にとっては小学校と保育園が一緒の方が便利だ。
- 隣接した施設の駐車場利用も考慮に入れ、施設の位置や車の流れをしっかりと考えて、駐車場確保を検討してほしい。
- いずれの案でも、住民が安全性を理解、納得できることが大切なので、どういう想定で配置を考え、どの様に安全が確保されているかをしっかり説明してほしい。場所の確保だけでなく、住民が円滑に避難できるための情報提供や避難訓練も行う必要がある。
- 案の中ではD案かD'案が良いと思う。D'案は、小学校に2つの保育園が複合化されて保育園のためのスペースが十分に取れ、公民館が中学校に複合されて駐車場が確保できるのが良い。

進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

ステップ1 ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。

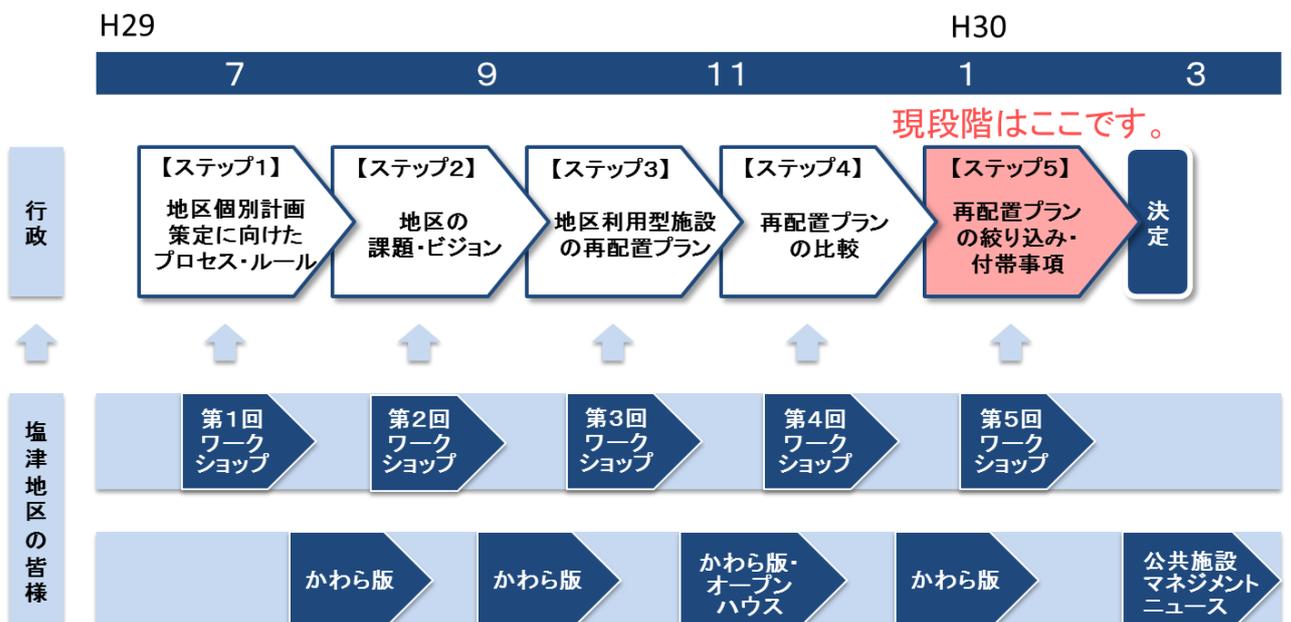
ステップ2 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。

ステップ3 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。

ステップ4 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。

ステップ5 再配置プランの絞り込みをします。

2 スケジュール（予定）



第4回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- ちょいちょい話がそれかいていたが、それぞれの疑問や不安についてしっかり意見を言い合えたと感じる。
- 1つ1つの議論に対してみなさんの意見が聞けて良かったと思います。
- もう少し、ソフト面を考えに入れたい。
- 各案についてかなりつっ込んだ議論にはなったと思う。只、問題点（心配される点）等についての具体的な対策案が示されないまま（ある程度は仕方ないが）議論してもどうか・・・？という思いもあった。
- 特に気になった事に対して深く掘り下げて話げできたかなと思います。
- 具体的な評価の視点が示されていたので、それらの視点に対する精査ができてよかった。
- 他のグループも活発な議論がされていてよかった。
- メリット、デメリットの基準が分かりやすく比較できたので、総合的な評価を考え易かったです。
- 対立する意見交換できて良かったです。
- 評価項目ごとの採点があったが一つの見方として考えやすいと思った。
- 四つのグループごとに特色のある意見が出されて良かった。
- 公民館と子供（小学生、中学生）とつながりが現状見えていない（地区体育祭と歩こうけんこう作り位？）
- 公民館 現状は敬老会の生涯学習が中心となっているように見える。
- 塩津地区から他地区に保育園児が61名と、あけぼのにも通っている事を考えると早急に併合して育てやすい保育園にしてほしい。

2 内容について言い足りなかったこと

- 一部運営（ソフト面）を前提にした意見があり、バスがあれば問題ない、援助すればいいといった本質とは少しずれた意見が出て、その後まとめられず結論にまでいけなかった。
- 懸念に対してどうするのか対応
- 項目ごとの評価内容を同席された市の方に各個に説明を聞かないと判らないし、着手前に十分な説明がなかった。
 - 1) その為◎,○,△の判断、評価が出来なかった
 - 2) 各評価項目が全体をもうらされておらず、（物的評価で）使用面・使い勝手が含まれていない
- ボリュームが大きすぎ 全項目を充分議論出来なかった。
- 近い将来必ず建て替えられるということなので、もう少し具体的な数字（予算等）が示されるといいと思う。
- どの案もそれぞれに良い所もあり悪い所もあり、建物等だけで物理的に考えるのか、利用者の事を使い勝手や気持ちを考えるのかで、また違ってくるけど、全てをうまくいい感じにまとめられないのが残念かなと思いました。
- 今回のWSが再配置プランの検討であるため、評価の仕方としては、物理的な距離から、それぞれの建物の連携を見ていくことが主になってしまうかなと思いました。そう考えると、今回考えているそれぞれの施設との連携だけでなく、公共交通機関（駅、バスなど）はもちろんのこと、他商業施設等との関係性も考慮に入れてもいいのかなと（討議が終わってから）思いました。
- 前半、評価の話をしているのか、何を話しているのかよく分からないときがありました…。
- ソフト面を検討する際も、市民をかませてほしいです。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 保育園をなくして、近隣の幼稚園に全て任せるという提案をしています
が、行政の立場で、金額面（コスト）とサービスをシミュレーションして
みて欲しいです。※既にあれば情報を見たいです。
今日も楽しかったです。市役所のみなさん、設営等大変おつかれ様です。
- 小学校、中学校を同一場所とすると、遠い地区の活性化が悪くなるので
は？

1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
①地区の活性化 (まちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> 住民のつながりや塩津ならではの特徴に繋がる地区の行事や活動などが一体的に実施できる場となっているか。 	ア 地区の行事や活動が一体的にできる拠点は充実しているか。(地区の行事や活動に学校施設を利用しやすくなったかで評価) イ 新たな地区住民同士のつながりが生まれるか。(公民館と他施設との関係性で評価) ウ 地区の行事や活動の際に使う駐車場は十分に確保されるか。(公民館の駐車場の確保がしやすくなったかで評価)
②子育てしやすい 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 立地、規模、サービスの面から子育てしやすい環境となっているか。 子どもの居場所・遊び場は確保されているか。 	エ 低年齢児保育や延長保育の実施など保育サービスが充実しているか。 オ 児童クラブの課題(待機児童と2箇所分散している問題)が解消されているか。 カ 子どもの送迎がしやすくなっているか。(児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価) キ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。 ク 保育園と小学校が連携しやすいか。 ケ 小学校と中学校が連携しやすいか。 コ 子どもにとっての新たな居場所や遊び場は生まれたか。 ヒ 中学生にとって静かな学習環境が保たれるか。
③ 多様な方々(若者・ 高齢者・障がい者・ 外国人)が利用できる 場の創出	<ul style="list-style-type: none"> 多様な方々(若者・高齢者・障がい者・外国人など)が関心を持って交流できる場は用意されているか。 	サ 公民館が多様な方々にとって利用しやすくなったか。(公民館の周辺人口で評価) シ 公民館を利用する様々な住民と保育園児の交流がしやすくなったか。(公民館と保育園の関係性で評価) ス 公民館を利用する様々な住民と小中学生の交流がしやすくなったか。(公民館と学校の関係性で評価) セ 学校での世代間交流が広がったか。(小学校と中学校の関係で評価)
④安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化への対応は適切にされているか。 防犯面に配慮されているか。 	ソ 老朽化対策はできているか。(老朽化している建物が減っているかで評価) タ 学校の防犯対策はしやすくなったか。 手 通学・通園の安全は高まるか。(保育園送迎の車と通学する児童生徒、学校や保育園の前面道路について評価) フ 通学の安全は高まるか。(保育園送迎の車と児童生徒の通学の交錯しやすさを評価) ハ 通園の安全は高まるか。(保育園の前面道路の危険性について評価)
⑤災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 避難所の数・機能・位置は適切か。 	ツ 避難所収容人数は充足しているか。 テ 避難所は分散しているか。(避難所の位置と数で評価) ト 津波浸水区域にある施設数は減っているか。 ホ 災害発生直後に避難する高台の避難場所は確保できているか。
⑥アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方にも配慮されているか。 駐車スペースは十分確保されているか。 	チ 施設までの距離の公平性が高まったか。(地区の区域内での施設の位置で評価) ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。(小学校の地形的な立地で評価) ヌ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。(保育園の駐車場の確保がしやすくなったかで評価) ネ 保育園が徒歩で通園しやすくなったか。(保育園の数と地形的な立地で評価) ノ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。(公民館の地形的な立地で評価) ハ 公民館が利便性の高い位置になったか。(公民館の交通利便性の高さで評価)
⑦将来負担(コスト)の 縮減	<ul style="list-style-type: none"> 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 跡地は有効に活用されているか。 	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 ・面積が小さいなど、建設費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる ・土地の売却や借地による収入が発生する場合は、総コストが低くなる ・面積が小さいなど、建物の維持管理費(光熱費・保守点検費)が安価な場合は総コストが低くなる

2 評価方法

視点①～⑥については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で採点します。

● 視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額にもとづき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.14～17のとおり。）

視点	評価項目	A案	B案	C案	D案	E案	B'案	D'案
①地区の活性化（まちづくり）	ア 地区の行事や活動が一体的にできるか。（地区の行事や活動に学校施設が利用しやすいか、学校を巻き込んだ活動をしやすいかで評価）	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
	イ 新たな地区住民同士のつながりが生まれるか。（公民館と他施設との関係性で評価）	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎
	ウ 地区の行事や活動の際に使う駐車場は十分に確保されるか。（公民館の駐車場の確保がしやすくなったかで評価）	△	○	◎	△	◎	○	◎
②子育てしやすい環境づくり	エ 低年齢児保育や延長保育の実施など保育サービスが充実しているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	オ 児童クラブの課題（待機児童と2箇所に分散している問題）が解消されているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	カ 子どもの送迎がしやすくなっているか。（児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価）	◎	○	○	◎	○	○	◎
	キ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。	△	○	△	○	△	○	○
	ク 保育園と小学校が連携しやすいか。	◎	○	○	◎	○	○	◎
	ケ 小学校と中学校が連携しやすいか。	◎	○	◎	○	◎	○	○
	コ 子どもにとっての新たな居場所や遊び場は生まれたか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ヒ 中学生にとって静かな学習環境が保たれるか。（中学校と小学校・保育園の関係で評価）	△	△	△	○	△	○	○
③多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人）が利用できる場の創出	サ 公民館が多様な方々にとって利用しやすくなったか。（公民館の周辺人口で評価）	△	○	○	○	○	○	△
	シ 公民館を利用する様々な住民と保育園児の交流がしやすくなったか。（公民館と保育園の関係性で評価）	◎	○	◎	◎	○	○	○
	ス 公民館を利用する様々な住民と小中学生の交流がしやすくなったか。（公民館と学校の関係性で評価）	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
	セ 学校での世代間交流が広がったか。（小学校と中学校の関係で評価）	◎	○	◎	○	◎	○	○
④安全の確保	ソ 老朽化対策はできているか。（老朽化している建物が減っているかで評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	タ 学校の防犯対策はしやすくなったか。	○	○	○	○	○	○	○
	チ 通学・通園の安全は高まるか。（保育園送迎の車と通学する児童生徒、学校や保育園の前面道路について評価）	◎	◎	◎	◎	△	△	◎
	ツ 通学の安全は高まるか。（保育園送迎の車と児童生徒の通学の交錯しやすさを評価）	△	△	○	△	○	○	△
	テ 通園の安全は高まるか。（保育園の前面道路の危険性について評価）	◎	◎	◎	◎	△	△	◎
⑤災害時の対応	ト 避難所収容人数は充足しているか。	○	○	○	○	○	○	○
	チ 避難所は分散しているか。（避難所の位置と数で評価）	△	○	○	○	○	○	○
	ト 津波浸水区域にある施設数は減っているか。	○	○	○	○	○	○	○
	ホ 災害発生直後に避難する高台の避難場所は確保できているか。	○	○	○	○	○	○	○
⑥アクセス性への配慮	チ 施設までの距離の公平性が高まったか。（地区の区域内での施設の位置で評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。（小学校の周辺人口と地形的な立地で評価）	△	○	△	○	△	○	○
	ヌ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。（保育園の駐車場の確保がしやすくなったかで評価）	△	◎	◎	△	△	△	○
	ネ 保育園が徒歩で通園しやすくなったか。（保育園の数、周辺人口、地形的な立地で評価）	△	△	○	○	△	△	○
	ノ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。（公民館の地形的な立地で評価）	△	○	○	○	○	○	△
	ハ 公民館が利便性の高い位置になったか。（公民館の交通利便性の高さで評価）	△	○	○	○	○	○	△
⑦将来負担（コスト）の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額（単位：百万円）	3,876	2,380	3,170	2,380	3,829	2,380	2,380

評価結果総括表 (修正版)

- 視点①～⑥については、各評価項目の ◎=2点、○=1点、△=0点として足し合わせ、75点に得点割合を乗じた値を下表のⅠにまとめました。
- 視点⑦については、50年間のLCC（ライフサイクルコスト）の縮減額の最も高い案を25点とし、その他の案は縮減額に比例して減点した値を下表のⅡにまとめました。
- ⅠとⅡを足し合わせ100点満点で合計を計算しました。

Ⅰ 地区の魅力や安全に関する項目（視点①～⑥）についての評価 (75点満点)

A案	B案	C案	D案	E案	B'案	D'案
38.89	44.44	47.22	47.22	36.11	41.67	45.83

Ⅱ 将来負担に関する項目（視点⑦）についての評価 (25点満点)

A案	B案	C案	D案	E案	B'案	D'案
25.00	15.35	20.45	15.35	24.70	15.35	15.35

合計 (Ⅰ+Ⅱ) (100点満点)

A案	B案	C案	D案	E案	B'案	D'案
63.89	59.79	67.67	62.57	60.81	57.02	61.18

評価に関する修正意見についての対応及び考え方

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
1	①	地区の中心に位置している人が集まりやすいと思うので、それも評価項目にならないか。	地区の行事や活動の拠点となる公民館について、評価項目ハ「公民館が利便性の高い位置になったか。」で塩津公民館が利用しやすい位置にあるかを駅からの近さで評価しており、公民館が中学校敷地に移るAD'は「△」、公民館の立地が現状と同じE及びほとんど変わらないその他の案は「○」としています。
2	①	施設がどこにあるのかは、今後自動運転システムなどの交通システムがもっと発達すればさほど問題にはなくなるのではないか。	各施設とも自家用車や公共交通機関のみならず徒歩や自転車での利用も想定されることから、そのような利用者への配慮も必要だと考えています。
3	② <コ>	小学校と公民館の複合化が子どもの居場所や遊び場の創出につながる理由が良くわからない。公民館が子どもの遊び場になるとは思えないし、放課後に小学校の施設が利用できるようになったとしても、大人の目の届かない所で遊ぶのは危険だと思う。	評価項目コは、左のご意見と「児童クラブの充実を図ることで良い」といったご意見から、削除することとしました。
4	② 追加	<ケ>では小学校と中学校の建物が近接することがメリットとして評価されているが、小さい子ども達の声が中学生の学習環境に支障をきたすといったデメリットも懸念される。<ケ>をソフト面から評価するために、「運営・使用上の懸念が解消されるか」という項目を追加してはどうか。	評価項目ヒ「中学生にとって静かな学習環境が保たれるか。」を追加しました。 小中学校を集約または中学校に保育園を複合した場合においても、防音対策を施したり運用の仕方により学習環境の悪化は避けられると考えていますが、ご意見にもとづき小中学校が集約されるACE及び中学校に保育園が複合されるBを「△」、その他のDB' D'を「○」としました。
5	③ <サ>	距離の問題は、コミュニティバスを通すなどソフトで解決できるし、将来的に交通システムがもっと発展すればさほど大きな問題にならないと思う。	各施設とも自家用車や公共交通機関のみならず徒歩や自転車での利用も想定されることから、そのような利用者への配慮も必要だと考えています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
6	③ 〈サ〉	1 km 圏、2 km 圏というのはどういう基準で決めたのか。施設が徒歩圏にあると行きやすいと考えるとしたら距離が長すぎる。	徒歩での利用を想定して設定しました。1 km は高齢でない人が徒歩で約15分かかる距離です。
7	③ 〈サ〉	高齢者や障がい者は公民館には車で来るだろう。多様な人に利用されるようになるためには、駐車場が整備されることの方が重要だ。	若者・高齢者・障がい者・外国人等多様な方々の利用しやすさという観点で公民館の配置を検討するときに、徒歩、自動車、公共交通機関等あらゆる手段でアクセスできることが重要だと考えます。 この項目の評価の仕方を再検討しましたが、左のご意見の駐車場の整備については評価項目ウで、高齢者の徒歩での利用しやすさは評価項目ノで、交通利便性の高さは評価項目ハでそれぞれ評価していることから修正は行いませんでした。
8	③ 〈サ〉	塩津公民館は近隣住民が利用する集会所とは機能が異なるので、周辺人口の多少は評価としてふさわしくないと思う。	若者・高齢者・障がい者・外国人等多様な方々の利用しやすさという観点で公民館の配置を検討するときに、徒歩、自動車、公共交通機関等あらゆる手段でアクセスできることが重要だと考えます。 左のご意見にもとづき、評価の仕方を再検討しましたが、徒歩での利用を想定した場合、居住地からの近さが利用しやすさを決める1つの要因となることから、この項目の周辺人口での評価を残しました。 例えば、外国人の人口は地区の南部に多く、1 km 圏内の外国人人口をみると現塩津公民館 433 人現塩津中学校 388 人と1割以上の差があることから、外国人の徒歩での利用の面では、公民館が中学校に移るよりも現地に残った方が利用しやすいことが想定されます。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
9	③ 〈ス〉	公民館を小学生が利用することはほとんどないので、小学校と隣接しているかどうかを評価してもあまり意味がないように思う。	公民館と小学校の複合化により、小学生が地区の行事や活動に関わることや、地区に住む多様な方々との交流が期待できると考えています。
10	④ 〈タ〉	全ての案が同じ評価になっているが、施設が複合化して人の目が多くなる、大人の目が多くなる方が安全性が増すのではないか。	評価項目タは、ハード面での防犯対策が行いやすいかを評価しています。大人の目が多くなることによる安全性向上は運営の仕方によるところが大きいいため評価項目に入れていません。
11	④ 〈チ〉	交通量の多い道路に接しているか否かで評価しているが、車より自転車の方が危ない点もあり、自動ブレーキシステムなど車の性能が上がっていることを考えても、この項目が重要なのかに疑問がある。	現状の塩津北保育園について、交通量の多い道路に接しているため危険とのご意見など子どもを巻き込む交通事故の発生に対する懸念から評価項目を設けています。 評価項目チについては、評価を分かりやすくするため、評価項目チをフとへの2項目に分割しました。
12	④ 〈チ〉	保育園と学校を同一敷地内にとすると、通園、通学時などに歩行者と登園の自動車が混在して危険になるため、A、B、D、D'案の評価は「○」ではなく「△」になるのではないか。	評価を分かりやすくするため、評価項目チをフとへの2項目に分割しました。 保育園送迎の車と児童生徒の通学の交錯しやすさについては、評価項目フで評価しています。 ABDD'は、保育園と学校の複合化により保育園の送迎と登下校が重なりやすくなることから「△」、その他の案は「○」としました。
13	④ 〈チ〉	E案とB'案の評価が「△」になっているが、単純に利用者人数だけで評価しているように思えるので、辛口の評価ではないか。	評価を分かりやすくするため、評価項目チをフとへの2項目に分割しました。 評価項目フで評価している現塩津北保育園の前面道路の危険性について、EB'では、現塩津北保育園の位置に2つの保育園が集約され大規模になるため、危険性は現状より高まると考えられることから「△」とし、現塩津北保育園の前面道路の危険性が無くなるその他の案は「◎」としました。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
14	⑤ 〈ツ〉	なぜ評価結果が全て現状と変わらない「○」なのか。施設を建て替えるのだから「◎」になる様にしてほしいが、そういう案は考えられないということか。体育館だけでなく小、中学校の教室を避難所として使うなど手立てはいろいろ考えられるので、スペースを増やす検討をしてほしい。	市全体で愛知県の被害予測に基づく必要な人数分の避難所は確保していることから、現状において収容人数は充足していると考えています。
15	⑤ 〈ツ〉	小、中学校が統合される場合、双方の生徒全員が合同で使えるくらいの大きさの体育館にしないと不自由が生じるし、避難所としても十分な広さとは言えないのではないか。	小中が統合した場合の体育館については、費用の縮減と教育上の必要性等から総合的に規模を判断します。施設再配置後も、市全体として愛知県の被害予測に基づく必要な人数分の避難所は、他施設等の利用により確保していきます。
16	⑤ 〈ツ〉	津波対策としては、施設の場所が高台にあるか、移動が難しい人も発災後すぐに高台にある避難所に移動できるかも重要なので、その視点からもチェックする必要がある。	蒲郡市ハザードマップにおける津波浸水予想地域は、愛知県による被害予測調査結果の中で、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定して作成された「理論上最大想定モデル」に基づき作成されています。蒲郡市ハザードマップでは、現状の塩津地区の地区利用型施設は、鹿島こども園を除き津波浸水予想地域に含まれていないため、高台に避難所があるかを基準とする評価項目を設けていません。ご意見にもとづき、評価項目ホ「災害発生直後に避難する高台の避難場所は確保できているか。」を追加しました。
17	⑤ 〈テ〉	発災直後に一時的に行く避難場所は分散していた方が良いが、避難所は分散していなくても良いのではないか。	避難所を分散配置させるべきだとしてご意見を多くいただいていることからこの評価項目を設けています。
18	⑤ 〈ト〉	ハザードマップでは現在の公民館周辺は浸水地区ではないが、過去の災害時のことを考えると、本当に浸水しないのか、安全面の確保は大丈夫なのかという疑問が残る。	16番と同じ理由により、評価項目トについては、全ての案で津波浸水区域にある施設数に増減はないため全ての案を「○」としています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
19	⑥ 〈ナ〉	「距離の公平性」という言葉はあいまいだし、対象者ごとのアクセスについては他の項目で評価されているので、この評価項目はなくても良いと思う。	「距離の公平性」に配慮すべきとのご意見に基づき評価項目を設定しましたが、他の項目で施設ごと・対象者ごとに評価していることや客観的な評価が困難なことから、この評価項目は、ご意見にもとづき削除しました。
20	⑥ 〈ニ〉	小学校が中学校の場所になって徒歩で通いにくくなるA、C、E案の評価は△ではなく×をつけたいぐらいだ。重要な項目なのでもっと重み付けをすべきではないか。	明確な評価をするため、評価項目ごとに「◎」「○」「△」の3段階で評価しています。 重視する事項は第5回ワークショップでの検討内容とします。
21	⑥ 〈ヌ〉	保育園の駐車場は現状でも足りていない状況なので、それが統合しても変わらないのであれば評価は△ではなく、現状維持の○で良いのではないか。	施設の集中により現状と同程度の駐車場の確保が難しい案を「△」としています。
22	⑥ 〈ネ〉	保育園に通うのに徒歩以外の足がない人がいるのか疑問だ。もしいるとしたらアクセスについて何らかの援助をすれば解決できると思うので、評価に入れるべき項目とは思えない。	保育園の送迎のために、自動車等の交通手段を持たない方もいることやそうした方への配慮が必要とのご意見にもとづきこの評価項目を設けています。
23	⑥ 〈ハ〉	公民館の利便性の高さを「駅から近い所にある」ことで評価しているが、地区内の人を対象と考えるならば一部を除けばあまり関係がないし、アクセス性の向上はコミュニティバスなどのソフト策で解決できることだと思う。	交通利便性の高さはそれぞれの方々のおかれた状況で変わってきます。 公共交通機関の近くに配置されれば利便性が高くなることのご意見もありこの評価項目を設けています。
24	⑥ 追加	「交通弱者のために新たな交通手段を用意する必要があるか」という評価項目を追加してはどうか。	施設自体について、「◎：現状より向上」、「○：現状維持もしくは一長一短がある」、「△：現状より低下」で評価できる項目を評価項目として設定しています。 施設の再配置によって生じる運用面で必要な事項については、付帯事項として整理したいと考えています。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
25	⑦	税金を多く払う必要が出ても構わないので、コストがかかってもこれだけの施設がほしいという意見もありうる。コストばかりを重視して評価しないでほしい。	ご指摘のとおりコストばかりを重視して評価すべきでないと考えています。しかし、コストを抜きにした考えでは将来世代の負担が過大になってしまうため、バランス良く考えていく必要があります。
26	⑦	75:25 という配分は適当に決めたことだと思うので、利便性の点数とコストの点数を足す意味がわからない。	総合的にどの案がよいのかを分かりやすく表現するためにコストとそれ以外の評価をそれぞれ点数化し足し合わせました。 点数化することで各案の改善すべきところや、注意しなければならないところが分かりやすくなると思います。 それぞれの案の点数は目安として考えていただき、将来に向かって明るい議論につながれば良いと思います。 75点と25点の配点は、蒲郡市公共施設マネジメント基本方針の考え方に基づき設定しました。基本方針における5つのキーワードの内、「実行力」を除く4つの内1つがコストに大きく関わる「適正化」であることから、4分の1をコストの配点割合にしています。
27	⑦	施設を複合化することでコストが下がることがわかったが、大きなコスト要因である人件費も削減できると思うので、それを反映したら評価結果が変わってくるのではないか。	LCC(ライフサイクルコスト)の試算では、一定条件を設定した上で、運営に係る市の支出の中で人件費も見込んでいます。
28	⑦	各案の課題に対応した場合のコストも計上するべきではないか。	各案を同一条件で比較するために、一定条件下で試算しています。 ご指摘の課題に対応した場合のコストは、実施前に良く検討してまいります。

番号	項目	ご意見	対応・事務局としての考え方
29	評価方法	視点ごとに評価項目の数に差があり、結果的に重みづけがなされた評価になっている。果たしてこれで良いのか。	複数の視点に当てはまる評価項目があり分類が困難なこと、ご意見の多少が重視されている度合いを表している面があること、視点ごとに点数化した場合、評価項目の少ない視点で1つの評価項目の影響が大きくなりすぎることから全ての評価項目を足し合わせる方式としました。
30	評価方法	「◎」「○」「△」の3段階評価になっているが、「○」は、“一長一短”を丸めて評価していて具体的な内容が分からないので、評価の判断がしにくい。	評価を明確に行うために「◎」「○」「△」の3段階としています。一長一短があることで「○」としたものは、評価の解説にその理由を記すようにしています。
31	評価方法	各案で課題となる事項に対しての対策案を出してほしい。対策案によって評価結果が変わる。	各案の課題への対策は、付帯事項としてご意見をいただきたいと思います。付帯事項も含めて市で地区個別計画を策定する際の要素として考えていきたいと思います。

付帯事項について

施設の再配置を実施後に配慮しなければならない事項（運営面での工夫等）を抽出・整理しましょう。

（参考）これまでにいただいたご意見

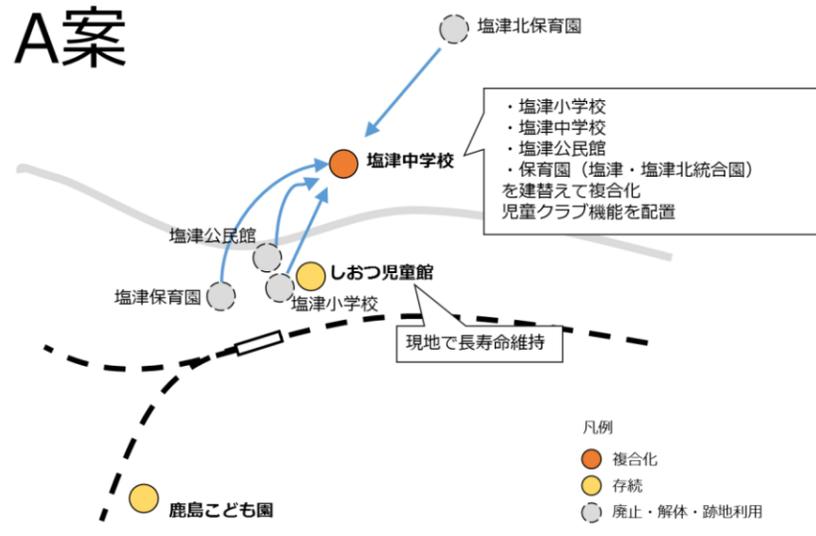
視 点	ご意見
① 地区の活性化（まちづくり）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や活動の内容についての情報発信
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園での延長保育や低年齢児保育の実施、入園手続きの簡素化など保護者ニーズへの対応 ・保育園の民営化を含めた運営体制の検討 ・保育園でのプログラムを詰め込みすぎず、伸び伸びした保育を失わないように配慮する ・保育園の地域とのふれあいを考慮する ・市内の発達支援児や日本語学習が必要な生徒を集めてサービスを提供
③ 多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人）が利用できる場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の喫茶店を入れるなどによる開かれた雰囲気づくり ・「いきいきサロン」の周知と利用者増につながる工夫 ・外国人との関係を築くための運営の工夫 ・塩津地区全体で世代間交流ができる機会をつくる
④ 安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に施設を複合する場合に、出入口をその他の施設とは別にするなど、学校への不審者侵入対策を図る
⑤ 災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の充実 ・地域ぐるみでの対応
⑥ アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の安全性を確保 ・公共交通機関の充実 ・車を持たない世帯への配慮 ・身近な集会場の活用・充実
⑦ 将来負担（コスト）の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ・住民を管理、運営ボランティアとして活用したり、NPOや市民クラブなどの民間への事業委託を進める
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との交流を活性化するためのソフトの充実 ・年代や居住地区に関わらず、誰もが参加したくなるような魅力的な行事やプログラムの提供 ・建替え時等の移行期の子どもの負担への配慮

I 施設を一箇所に集中させ、地域の拠点施設を整備する。

中学校敷地に施設を集中させるプラン

【重点を置いた解決策】1 12

- 塩津中学校に、塩津小学校、塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館を複合化し、教育・地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 施設数を減らすことができる。
- 保育園から中学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 小学校・公民館跡地の活用が可能。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 6 8 12 13

課題

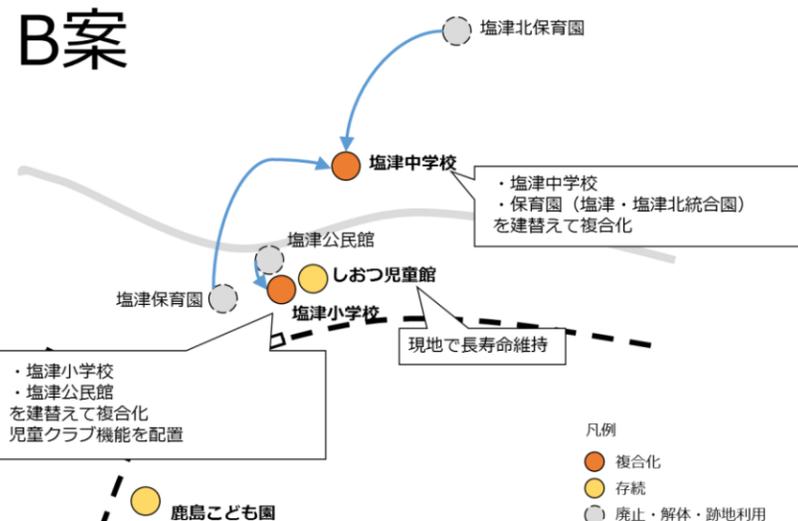
- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。
- 中学校敷地へは坂を上る必要があるため、車を持たない利用者等のアクセス性が低下する。
- 地区の南部からのアクセス性が低下する。
- 中学校の敷地面積では、必要な機能を十分に確保することは難しい可能性がある。

II 施設を複数箇所に分散し、利便性と機能の向上を図る。

多様な方々の交流の場を複数つくるプラン

【重点を置いた解決策】1 5

- 塩津小学校と塩津中学校のそれぞれに、新たな機能を複合化します。
- 塩津小学校と塩津公民館を複合化し、多様な方々の交流の場を形成します。
- 塩津中学校に塩津・塩津北保育園の統合園を複合化します。



特徴

- 小学校が地域の行事や活動の拠点になる。
- 小学生と地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 保育園児と中学生の交流が可能となる。

【関連する解決策】1 2 3 5 6 7 8 10 13

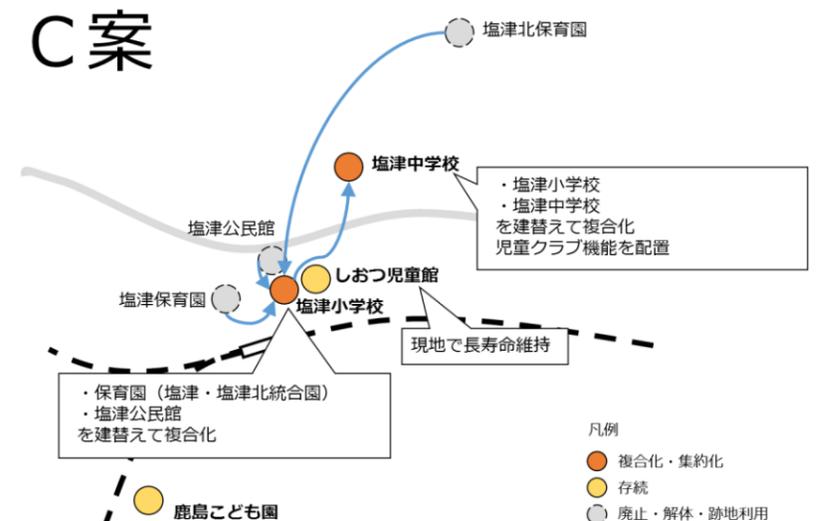
課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。
- 中学校敷地へは坂を上る必要があるため、車を持たない利用者等のアクセス性が低下する。

小中の一体化による教育の拠点とアクセスしやすい地域活動の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】2 11

- 小中学校の機能を集約した学校を塩津中学校の敷地に整備し教育の拠点を形成します。
- 塩津小学校の敷地には、塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館の複合施設を整備し、多様な方々が交流できる地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 小中の一体化により教育環境を充実しやすい。また、小中は類似施設であることから安全面での問題が生じにくい。
- 保育園児と地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 交通利便性が高く、広い駐車場が確保できるアクセス性の高い複合施設ができる。
- 小学校跡地の活用が可能。

【関連する解決策】1 2 3 5 6 7 8 9 10 11 13

課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。

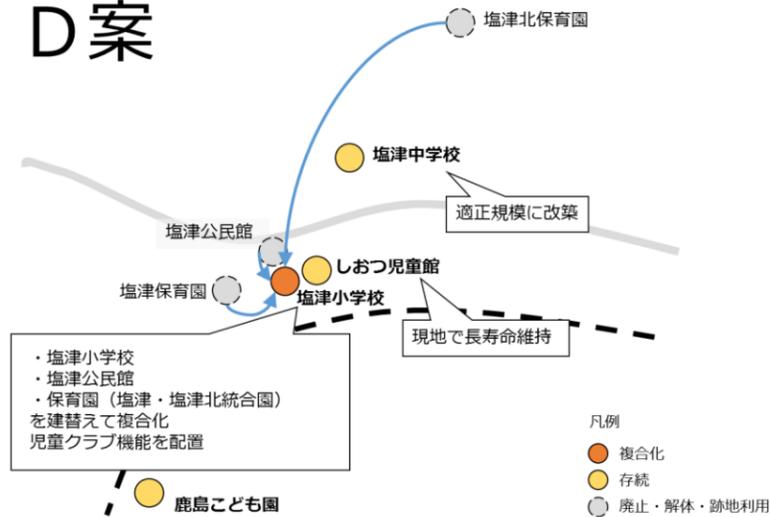
Ⅱ 施設を複数箇所に分散し、利便性と機能の向上を図る。

多様な方々の交流と充実した子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】4 5 9

- 塩津小学校に塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館を複合化し、子育てと地域活動の拠点を形成します。

D 案



特徴

- 保育園から小学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 保育園児・小学生・地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 学校と公民館を一体的に利用した地域の行事や活動を行いやすい。
- 駅に近くアクセスしやすい位置に施設が集まる。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 13

課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。

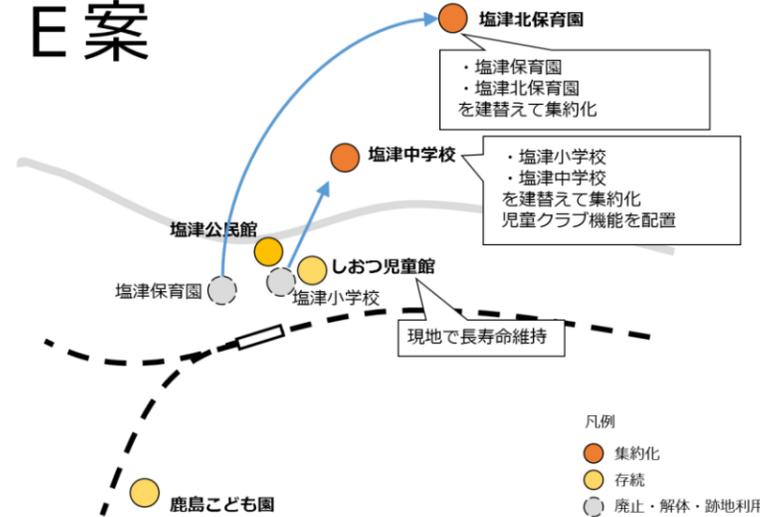
Ⅲ 同じ用途の施設を集約化して機能強化を図る。

同一用途の施設を集約するプラン

【重点を置いた解決策】2 10

- 小中学校の機能を集約した学校を塩津中学校の敷地に整備し教育の拠点を形成します。
- 塩津・塩津北保育園の機能を塩津北保育園に集約化します。

E 案



特徴

- 小中の一体化により教育環境を充実しやすい。また、小中は類似施設であることから安全面での問題が生じにくい。
- 施設が分散されている状態が保たれる。
- 避難所の分散配置が可能である。
- 公民館の駐車場が拡張できる。
- 小学校跡地の活用が可能。

【関連する解決策】2 3 6 7 8 10 13

課題

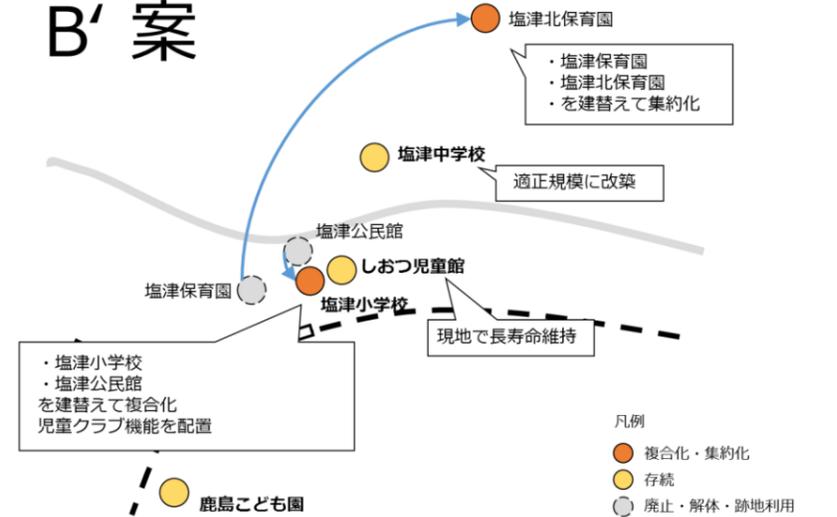
- 施設間の連携が取りにくい。
- 地域活動の一体性をつくりにくい。

Ⅳ ご意見に基づく追加プラン

B案の保育園の位置を変更したプラン

- 塩津小学校に塩津公民館を複合化します。
- 塩津・塩津北保育園の機能を塩津北保育園に集約化します。

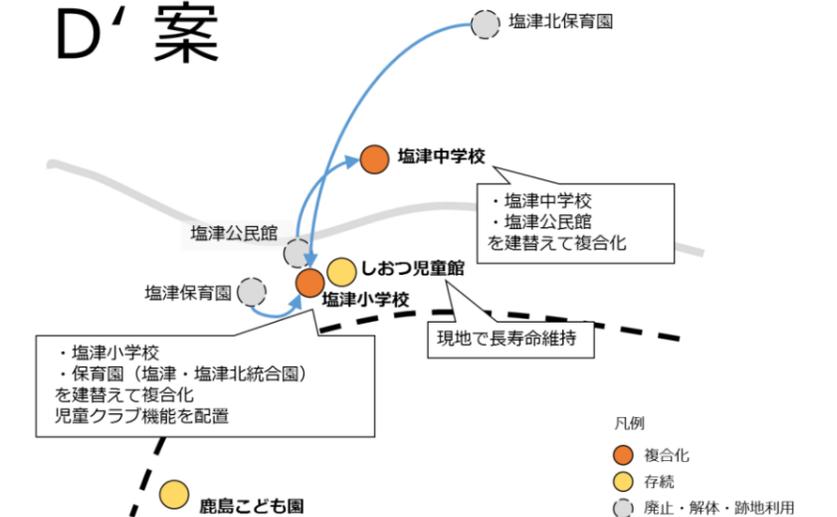
B' 案



D案の公民館の位置を変更したプラン

- 塩津中学校に塩津公民館を複合化します。
- 塩津小学校に塩津・塩津北保育園の統合園を複合化します。

D' 案



本日の検討内容

- ① これまでのワークショップでの検討内容や評価結果を踏まえると、将来の塩津地区の公共施設の配置としてふさわしい案はどの案ですか。
どのようなことを重視してその案を選びましたか。

- ② 皆様が将来の塩津地区にふさわしいと考える再配置プラン案を整理しました。
各案について配慮すべきことや実施する上で注意すべきことはありますか。